

学校運営協議会 第3回会議 議事録

日 時：令和5年11月9日(木) 14:30～16:30

場 所：浜松湖北高校 佐久間分校 各教室・大教室

出席者：委員 熊井大介 様 校 長 大澤 貢
 委員 坪井俊介 様 副校長 佐藤 敦
 委員 遠藤睦子 様 教 頭 奥村友介

【開会】

1 授業見学(各教室)

2 校長挨拶

3 議事

(1) 佐久間分校の近況について

〔事務局説明〕生徒募集について

生徒の様子(部活動・進路)について
最近の学校の様子について

《委員質問・意見》

- ・ 昨年は寮に関する問い合わせが多かったが今年はどうか。

(事務局より)個別の問い合わせはあまりない。中学校への案内を引き続き行う。

- ・ 3年生の化学基礎演習はどのような生徒が受講しているのか。

(事務局より)化学基礎演習は、3年文系の生徒が受講している。共通テストの受験も視野に入れて選択した生徒たちである。同じ時間帯に行っていた数学Ⅲ演習は、3年理系の生徒で、大学への進学を目指して選択をした生徒たちである。

(2) 地域・外部との連携について

(3) 教師を取り巻く環境整備について

〔事務局説明〕地域・外部と連携した授業・行事について

教師を取り巻く環境整備について
分校職員の時間外在校時間について

《委員質問・意見》

- ・ 外部との連携について浜松市の協力を得るとよいのではないか。

(事務局)特定の事柄についてはお願いして協力をしていただいている。幅広く協力いただけるよう、関係を築けたらと思う。

- ・ 中学校などには「支援員」がいるが高校はどうか。「支援員」がいれば先生方の仕事を減らすことができるのではないか。

(事務局)県立高校では小中学校に配置されているスクールサポートスタッフのような「支援員」はいないと思う。人件費がかかることであり、県単独では難しいのではないか。

- ・学校の経費はどのような形で賄われているのか。
(事務局) 学校経営のために決まった額が県教委から割り当てられる。その中で光熱費や教員の旅費などを出している。分校は規模が小さいので予算も少ない。今年までは大学の先生などへの謝金については県教委の研究指定事業として行っているオンリーワンハイスクールの予算から支出しているが、今年で事業終了のため、来年以降、謝金等の財源をどうするかが大きな課題である。
- ・愛知県には、県立高校が校外へ出て行って学習を行う際に、複数の自治体が協力してバスを出す動きがあると聞いたことがある。
(事務局) 佐久間中学校には浜松市から送迎用の車が来ているが、佐久間中学と佐久間分校では設置者が違うので分校生の利用は難しいと聞いている。
- ・特別な企画ではなく、日常的な学校の経費について、クラウドファンディングはできないのか
(事務局) クラウドファンディングを行っている学校もあるので、行うことは可能と思うが、返礼品等が難しいと思う。新しい取り組みを一から作り上げることは、教員の仕事の内容から考えてかなり負担になると考える。
- ・周囲の人たちが、もっと学校に関心を持ってほしいと思う。
- ・「地域学校協働活動推進員」とは何か。
(事務局) 教育委員会の施策に協力して、学校活動を支援し、学校と地域を結びつけるコーディネーターの役割を期待される人である。学校・家庭・地域が一体となって子供を育てることができるよう、各市町村が小中学校区単位で地域学校協働本部と呼ばれる仕組みを整備する動きがある。この地域学校協働本部に、地域学校協働活動推進員の配置が想定されている。

【閉会】